

④みどりの食料システム戦略推進交付金

<どんな事業？>

環境と調和のとれた食料システムの確立に向け、調達から生産、加工・流通、消費に至るまでの環境負荷低減と持続的発展に向けたモデル的取組の横展開や有機農業の取組拡大、地域資源の循環利用を図るための交付金です。

<メリット>

産地に適した技術の検証とその定着を図る取組や、新たに有機農業への転換等を行う生産者の取組に対して必要な経費の支援を受けることができます。

みどりの食料システム戦略推進交付金

(主な事業メニュー)

R6補正：32.8億円
R7当初：3.6億円

【環境負荷低減活動定着サポート】

みどり認定農業者による環境負荷低減の取組の拡大・定着に向けた「みどりトータルサポートチーム」の体制整備、サポート活動への支援

【グリーンな栽培体系加速化事業】(旧：グリーンな栽培体系への転換サポート)

産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」への転換を加速化するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組を支援

【有機農業拠点創出・拡大加速化事業】(旧：有機農業産地づくり)

地域ぐるみで、生産から消費まで一貫して有機農業を推進する取組の試行や体制づくり、産地と消費地が連携した消費拡大の取組等を支援し、「有機農業の推進拠点となる地域(オーガニックビレッジ)」を創出

【有機転換推進事業】

新たに有機農業を開始、慣行栽培から有機農業へ転換する農業者に対して支援

【バイオマスの地産地消】

地域のバイオマスを活用したエネルギー地産地消の実現に向けたバイオマスプラント等の調査、設計、施設整備や、バイオ液肥の散布実証・散布車導入などを支援

【地域循環型エネルギーシステム構築】

地域の再生可能エネルギー資源を活用した地域循環型エネルギーシステム構築の取組(営農型太陽光発電の導入実証、次世代型太陽電池等の導入実証、未利用資源のエネルギー利用促進の調査など)を支援

令和6年度は69の地域等で交付金が活用されました！

みどりの食料システム戦略



ガイドブックの21ページに交付金の各メニューを紹介しています！



農林水産省では現場で取り組みたい内容から逆引きで支援策を探せるガイドブックを作成・発信しています。



東北農政局ではグリーンな栽培体系加速化事業の事例集を作成しています。



【参考】環境配慮のチェック・要件化(みどりチェック)

食料システム全体での環境負荷低減への意識向上とその取組の底上げを図るため、農林水産省の全事業で環境負荷低減の取組を義務化する「みどりチェック」を令和9年度より本格実施します。

「みどりチェック」の7つの基本的な取組とポイント



みどりチェックの業種別解説書やQ&Aを農林水産省HPに掲載しています。



みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に取り組んでみませんか？

？ みどりの食料システム戦略ってどんな戦略なの？

農林水産省では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」(みどり戦略)を策定しました。

みどり戦略では、2050年の目標として、化学肥料使用量の30%低減、農林水産業のCO₂ゼロエミッション化等14の目標を掲げています。

農林水産省はその実現に向けて各種取組の支援を行っています。

東北農政局HPでみどり戦略を紹介しています！



？ こんな悩みありませんか？

①「環境にやさしい農業」に取り組んでいることを認定してもらえないかなあ・・・

②「環境にやさしい農業」に取り組んでいることをアピールしたい！

③「環境にやさしい農業」に取り組むことで新たな収入源を確保したいなあ・・・

④「環境にやさしい農業」に取り組むたいけどできることは何かなあ・・・



その悩み・・・

みどり戦略の各種取組で解決できます！
具体的な取組内容は次のページへ！



①みどり認定

<どんな制度？>

農林漁業における環境への負荷を低減する事業活動等に関する計画を県が認定する制度です。JAの生産部会など、グループで認定を受けることも可能です。**また、令和9年度より開始される新たな「環境直接支払交付金」にはみどり認定の取得が必要です。**なお、みどり認定とみどりチェック(4ページ下部の参考)は異なる取組です。

<メリット>

認定されると様々な国庫補助事業に優先採択されるほか、計画の実現に必要な施設・機械等の改良・造成・取得をはじめとした様々な用途に活用できる資金(※1)や税制特例(※2)を活用できます。

※1: 日本政策公庫の無利子の融資制度である「農業改良資金」

※2: 導入した機械等に適用できる「みどり投資促進税制(特別償却32%)」



優先採択の
対象事業はこちら



みどり認定の
詳細はこちら

農業改良資金の概要

償還期間: 12年

利率: 無利子

上限: 個人5,000万円、法人・団体1.5億円

資金の使い途: 農業改良措置を行うために必要なもの(施設の改良、造成又は取得など)

※資金の活用には日本政策金融公庫の審査が必要なお住まいの県と公庫に事前のご相談をお願いします。

みどり投資促進税制のイメージ

700万円の機械(耐用年数7年)を導入した場合



岩手ふるさと農協では
3,756経営体による
グループ認定を受けました!

令和7年8月末時点で
東北では6,406経営体が
認定を受けました!

県	認定者数(経営体数)
青森	107
岩手	3,906
宮城	1,759
秋田	226
山形	108
福島	300
計	6,406

②みえるらべる

<どんな制度？>

対象品目について、温室効果ガスの削減や生物多様性の保全に貢献する取組について自己評価し、農林水産省に登録することで、環境に配慮した農産物生産の取組を「見える化」するラベル表示(みえるらべる)を行うことができる制度です。現在、24品目が対象になっています。

<メリット>

温室効果ガス削減や生物多様性保全(米のみ)に貢献する取組のレベルを消費者に分かりやすく示すことにより、これらの取組に関心のある方々に積極的に商品選択していただくことができます。



みえるらべる



対象品目: 24品目

露地栽培のみ利用可能

米、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、日本なし、もも、ばいしん、かんしょ、茶

施設栽培のみ利用可能

ミニトマト、いちご

露地・施設どちらも利用可能

トマト、キュウリ、なす、ピーマン、温州みかん、ぶどう



ラベルを表示した商品



星の数に応じたラベルシールを
農林水産省が配布しています。



費用

無料

【利用登録から登録番号付与まで、概ね1カ月程度が目安です。】

令和7年8月末時点で、全国で1,239件(東北で139件)の登録が行われ、1,135か所(東北で70か所)の販売店舗で販売されました!

③Jークレジット

<どんな制度？>

水田の中干し期間の延長やバイオ炭の施用によるCO₂等の排出量削減等を「クレジット」として国が認証する制度です。プロジェクトを新しく立ち上げる際の計画書の作成支援や、計画書の審査に係る費用に対して補助を行っています。

<メリット>

農林水産事業者が創出した「Jークレジット」を売却することで新たな収入源として活用いただけます。

水稲栽培における中干し期間の延長に取り組むことで、10アールあたり2,000~4,000円程度の収益を想定しています!また、中干し期間の延長は令和6年度に東北では約19,000ヘクタールで取り組まれています!

■農業者が取り組むプロジェクト52件の内訳

◆太字はプログラム型プロジェクト、赤字は2025年9月までにクレジットが認証されているプロジェクト

分類	方法論	件数	取組者
省エネ	空調設備の導入 など	5	(同)北海道新エネルギー事業組合、 唐津農業協同組合 、 フタバ産業(株) 、 クボタ 大地のいばき 、九州電力株式会社
再エネ	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料の代替 など	4	(株)伊賀の里モクモク手づくりファーム、(株)タリコアグロビジネス、(株)リーフデ北上、イオンアグリ創造(株)
省エネ・再エネ	未利用熱の熱源利用 など	1	(株)エフ・ウォーター農園
農業	家畜へのアミノ酸/バランス改善飼料の給餌	3	味の素(株) 、(株)Eco-Pork、デジミス(株)
	家畜排せつ物管理方法の変更	2	(株)ファームノート・アグリファクトリー、Green Carbon(株)
	バイオ炭の農地施用	11	(一社)日本クルベシ協会、(株)TOWING、(株)未来創造、NTTドコモビジネス(株)、(株)フェイガー、(株)Chem.Eng.Lab.、大山乳業農業協同組合、シコムアグリテック(株)、(株)KCL、(株)フジタ、(株)ホンダレーディング
	水稲栽培における中干し期間の延長	25	クボタ 大地のいばき、Green Carbon(株)、三富商事(株)、(株)フェイガー、(株)Jizoku、NTTドコモビジネス(株)、(株)未来創造、(株)TOWING、(株)バイオカル、伊藤忠食糧(株)、飯和興業(株)、フィードワン(株)、神山物産(株)、(株)Reviv、田中産業(株)、(株)厚生、日本電計(株)、グリーン・ブラス(株)、(一社)スマート農業共同体、(株)アルプロン、新潟市、SDI地方創生サービス(株)、(株)おてんとさん、(株)Sustech、グラントマト(株)
	バイオマス/酸の給餌	1	味の素(株)
合 計		52	※アミノ酸/バランス改善飼料の給餌と飼料プロシット(バイオマス/酸の給餌)の合計

■農林漁業者・食品産業事業者等による活用
が想定される主な方法論 2025年9月時点

省エネ	ボイラーの導入 ヒートポンプの導入 空調設備の導入 園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入
再エネ	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替 太陽光発電設備の導入
農業	家畜へのアミノ酸/バランス改善飼料の給餌 家畜排せつ物管理方法の変更 茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥 バイオ炭の農地施用 水稲栽培における中干し期間の延長 肉用牛へのバイオマスアミノ酸の給餌
森林	森林経営活動 再造林活動



農業分野の方法である中干し延長やバイオ炭散布の様子



Jークレジットの
詳細はこちら

農林水産省では、Jークレジットの創出量をシミュレーションできる「**農業Jークレジットシミュレーター**」を作成しました。検討する際の目安としてご活用ください!

農林水産省
東北農政局

お問合せ先: 農林水産省東北農政局 環境・技術課
(TEL: 022-263-1111(内線4230、4225))

